

学校運営協議会 議事録

校 名	府立 港 高等学校
校長名	浦 山 聖

開催日時	令和7年11月28日（ 金 ） 15：30 ～ 16：45
開催場所	大阪府立 港 高等学校 1階会議室
委 員	吉田 景一 委員 佐藤 美智 委員 鍋谷 賀都緒 委員 川口 智 委員（石井 力 委員代理） 常石 里美 委員
学 校	校長 浦山 聖 教頭 宮城 良明 事務長 麻野 佳之 首席 内藤 亮一 生徒指導主事 早川 宏行 自治会顧問 宮地 耕介 進路指導主事 今木 一充 3学年主任 稲田 和明 2学年主任 吉田 正勝 1学年主任 八田 博公
傍聴者	なし
協議資料	・ 学年、分掌マネジメント表 について ・ 令和8年度使用教科書の採択について ・ 令和7年度 第2回 学校運営協議会（校長報告資料）
備 考	

議題等（次第順）	
大阪府立港高等学校 令和7年度 第1回学校運営協議会	
次 第	
1 開会	（司会 教頭 宮城 良明）
2 校長挨拶	（校長 浦山 聖）
3 報告	
（1）各分掌・学年の進捗状況について（学年・分掌マネジメント表から）	
① 生徒部 生徒指導	
② 生徒部 自治会	

- ③ 進路指導部
- ④ 生徒部 保健
- ⑤ 総務部
- ⑥ 3学年
- ⑦ 2学年
- ⑧ 1学年

(2) 令和10年度選抜より実施となる特別枠入学者選抜について

(3) その他

5 協議

- ・ 報告事項について（どんな観点からでも）

6 諸連絡

今後の協議会予定

令和7年度第3回 令和8年 2月13日（金）15:30～

7 校長「閉会」の挨拶

（校長 浦山 聖）

報告・協議内容等（意見の概要）

報告

(1) 各分掌・学年の進捗状況について（学年、分掌マネジメント表より）

① 生徒部 生徒指導

- ・ 遠隔リモート授業など、生徒指導のハードルが下がるのではという意見もあります。
- ・ 大幅遅刻者には、放課後に事情を聴くという新たな取り組みを始めました。
- ・ 生徒たちが社会に出たときに困ることが無いよう指導していきたい。

② 生徒部 自治会

- ・ インフルエンザによる学級閉鎖が4クラスありましたが、合唱コンクールを開催。
- ・ 参加できなかったクラスは、1年については学年でコンクールに変わる発表の機会を設けました。2年については、修学旅行の全体レクで発表してもらう予定です。

③ 進路指導部

- ・ 3年生の指定校は、現在、5次募集まで進み合計42名まで増加しています。
- ・ 就職については、希望者8名中、8名全員が合格を勝ち取りました。あと縁故で1名決まっている生徒がおり、結果9名中、9名全員が進路決定しています。
- ・ 共通テストは12名が受験。個別でHPを作り、出願に向けてサポートしています。

④ 生徒部 保健

- ・受験に対する不安やストレスのため、3年生の来室が増加している。
- ・校内美化については少しずつ生徒の意識も向上し、きれいになってきています。
- ・避難訓練については、ワークショップを取り入れ、防災意識の向上を図りました。

⑤ 総務部

- ・図書業務は、移動図書館を設けたり、SNS で発信したり、読書の推進を図ってます。
- ・奨学金関係で、例年なかなか採用されない 50 万円給付のものがありませんが、今年度は久しぶりに採用されて、生徒の将来に大いに役立つと期待しています。

⑥ 3 学年

- ・現時点で、半数ほどの生徒（結果待ちを含みます）の進路が決まってきた、そのような状況です。
- ・先日クラスマッチが無事終了し、最後の学年行事が終わりました。生徒たちが3年間の集大成とできるよう、3学期も指導していきたい。

⑦ 2 学年

- ・例年以上に多い、国公立大学進学希望者に、丁寧に説明をして現実を知ってもらっています。現実を知ったうえでチャレンジしていく生徒を応援していきたい。
- ・そういう生徒たちに引っ張られたのか、進研模試の申込者が 50 名ほどに達した。
- ・修学旅行を控え、学年を盛り上げて、そのあとの 3 学期は、3年生 0 学期ということで進路に対してしっかり向かい合っていけるように指導していきたい。

⑧ 1 学年

- ・良くも悪くも学校に慣れてきたという感じです。
- ・そのため遅刻が増加してきました。学年としては独自の取り組みなども行いながら、少しずつ学年の雰囲気の良いものに変えていき、1 月には英語検定もあり、進路に向けた取り組みも同時に進めていきたいと思います。

なお、教務部・人権教育推進委員会・教育相談委員会については、校務により担当者が欠席のため、教頭が資料に基づき簡単に説明をしている。

【質疑応答】

○印：学校運営協議委員のご発言、ご意見 ●印：学校教員の発言、意見

○ご報告の中に出てきた遠隔授業を受けている生徒 2 名について、どのようなプロセスで決定されたのでしょうか。

●昨年度本校で作成したガイドラインに基づいて、本校で進級・卒業をしたいという意思を持っていて、欠席数が40日を超えた生徒について、本人と保護者に遠隔授業の話をして、受けるかどうか決めていただくという流れです。生徒がしんどいながらも学校に来ようとしている状態のときは、遠隔（オンライン）授業の話はいったん置いておき、いよいよ登校が難しくなったタイミングで、紹介するという流れでした。

●利用できる単位数に上限があるため、3年間で1回しか利用できない制度です。だから1年生でこの制度を利用すると、2年・3年では使えない。別の見方をすると3年生ならば使い易いが、1年では利用しにくい。

●少し補足いたしますと、この制度上限36単位と決まっています。高校の場合は1年間30単位が基本です。1年で利用すれば、翌年は6単位しかこの制度は使えない。その為状況が改善しなければ、転学せざるを得ないそんな現状があります。またこの制度は、昨年度GW明けに降りてきて、昨年度から実施しなさい、と指示されたもので、本校は何とか対応していますが、他の都道府県ではまだ対応できていない所も結構あります。

※ここで来年度採択の教科書一覧表を確認していただきました。

（2）令和10年度選抜より実施となる特別枠入学者選抜について

校長

- ・令和10年度選抜から実施予定の特別選抜枠の現時点での案は、エントリーシートの提出を求め、中学校の評定については各学年を1：1：1で扱います。エントリーシートの評価が本校の求める具体的な生徒像に合致するものを選び、学力検査と中学校の評定、エントリーシートの評価を点数化して合計点を出し、その上位から合格としていくものです。
- ・また第2志望を選ぶことができます。第1志望の高校に不合格になった者のうち、第2志望の高校をあらかじめ登録していた場合、第2志望の高校が定員を満たしていない場合は、自動的に選抜され合格になる場合がある、というものです。
- ・特別選抜枠実施に向けて、アドミッションポリシーの見直しが必要となります。
- ・続けて、今年度の状況として皆様にご報告する内容としては

※働き方改革では、来年度より年間720時間以上の時間外勤務の教職員を0にする、という方針が示され、校長の管理責任として実施していくことになりました。学校の現状を見たときに、とても達成が難しい内容です。

※教室の内装リフォームが、知事の方針で実施が決まりました。しかし施工業者は各学校で見つけることと、長期休業中にリフォーム完了しなければならないため、業者の数や人手が足りないことが十分考えられ、本当に5年間ですべての学校のリフォームが完了するか心配です。

※学校の特色・魅力づくりと広報活動については、普通科の特色・魅力をどのように打ち出していくのか、これが非常に難しい。私学への流れをどのように引き戻すのか。それが達成できるような独自のものを作り出していく必要があります。やは

り生徒が主体となって授業を進めていく。行事ももっと生徒が運営にかかわるよう
にできる力を育む学校にすることが必要であると思います。

【質疑応答】

○印：学校運営協議委員のご発言、ご意見 ●印：学校教員の発言、意見

○中学３年間の評価が１：１：１については、特製のある生徒や支援学級の生徒には不利に働く部分があるのではないかと心配があります。また中学の部活も６年間で地域移行となっています。同じような悩みを抱えていられると思う。若手の教員が部活動の指導を受けなくなっている現状で、顧問のなり手がこれからどんどんいなくなってくると考えられ、その中で地域移行を各校で工夫してと言われる。これは大変です。さらに高校では公立と私学と競争をさせられている。資金面など大きな差があり大変だと感じています。私物端末での撮影禁止と通知があり、その結果、データを安全な場所に移すため時間を使って作業しなければならない。負担が増えていく一方です。感想が中心になりましたが、探究についてどのような形で進めておられるのか実例を教えていただきたい。

●昨年度から、業者のプログラムを利用して進めている。年間の時間数を業者に伝えその中でそれに応じた探究活動を進めています。中身はすごくシンプルです。１年目に自分の興味関心を掘り下げて考え、それを踏まえて２年目に進路に向けた取り組みにつなげている。まだ結果は出ていないのでどうなるかはわかりませんが、まだまだ探り探りの状態です。

●総合探究なのですが、簡単に教科横断的と言われても、それが難しい。専門の教員があてがわれているわけではなく多くの公立では困っている。GLやSSHはそれを目的としたカリキュラムを組んでいます。そうでない効率は資金源もなく人もいないので、手探りでやらざるを得ない。だからこそ、そこから一歩抜け出せば特色につながる。大学進学の特徴型選抜にも結び付けられる。

○教育委員会がそういうことをサポートするような仕組みは？ ●ありません。

○そもそも探究は現場任せ。自分の経験をもとに探究の教材を作ろうとしても、その時間的余裕がない。ますます教員への希望者が少なくなってきた、さらに質の低下の問題も出てきている。プログラムを作ろうと一生懸命働こうとしたら、労働時間減らせと、これ以上働くなと矛盾がある。根本的な問題は子どもの数が多すぎる。半分ぐらいになると先生方のゆとり・時間も生まれてくる。

次回の会議日程

日 時	令和８年２月１３日（金） １５：３０からの予定
会 場	大阪府立港高等学校 会議室